

都市再生整備計画 事後評価シート
相模台周辺地区

平成24年3月

神奈川県相模原市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	相模原市		地区名	相模台周辺地区			面積	738ha		
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	1,881百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】市道南台28号、市道桜台3号ほか1、市道麻溝南台、市道大沼通、市道双葉4号、市道下溝4号、市道下溝7号、市道麻溝台41号、市道麻溝台44号、市道麻溝台65号、市道新磯野1号、市道新磯野2号、市道新磯野4号、市道新磯野5号 【地域生活基盤施設】緑地：小田急相模原駅北口駅前広場 【高質空間形成施設】トイレ：小田急相模原駅北口、歩行者支援施設・エスカレーター：小田急相模原駅南口 【高次都市施設】多目的会議室：小田急相模原駅北口再開発ビル、デッキ：小田急相模原駅北口										
		提案事業	【地域創造支援事業】下水道整備事業(汚水)、下水道整備事業(雨水)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路】①市道南台30号、②市道南台25号、市道相模台1号 【高質空間形成施設】緑化施設(市道相模台1号関連)			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	-			-			影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	【高次都市施設】③AB間歩行者連絡通路(デッキ)			③実施主体が県から市へ移管されたことに伴い関連事業から移行			影響なし				
		提案事業	【事業活用調査】④都市再生整備計画事業効果分析業務			④事業評価のため追加			影響なし				
交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
	変更	なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	小田急相模原駅の利用者数	人/日	54,477	H17	55,100	H23	-	55,163	○	あり なし	小田急相模原駅関連交通施設により、歩行者や車アクセス等の交通利便性が格段に向上し、また、北口A地区再開発完了による中心施設が賑わいを生みだすことにより、小田急相模原駅の利用者数が増加し、目標1の「地区中心市街地として相応しい賑わいのあるまちづくり」が達成された。	H24年7月
	指標2	地区内定住人口	人	56,270	H18	58,000	H23	-	56,360	△	あり なし	生活道路、下水道、その他の整備により住環境が向上し、地区内定住人口が増加はしたが、目標値を達成できなかった。新たな宅地開発が進む一方で、地区内には老朽化した大規模な団地が2箇所あり、その居住者数が毎年減少していることが大きな原因である。	H24年4月
	指標3	市民活動団体の活動回数	回/年	4,187	H17	6,600	H23	-	7,641	○	あり なし	小田急相模原駅北口再開発ビルの多目的会議室おださがプラザが開館したことにより、市民活動の活動回数が増加し、目標3の「地域の一体感の創出とコミュニティ活動の醸成」が達成された。あわせて、小田急相模原駅関連交通施設の整備も間接的に効果発現に繋がった。	H24年8月
指標4									あり なし				
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1	地区人口の社会増減	人/年	-190	H18		167				公共下水道の整備や駅周辺の再開発により、相模台周辺地区の社会増減は増加傾向をたどっており、目標2の「安全・安心で快適な住環境の整備」に対して効果を発現した。	H24年4月	
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況	抜け道として使われている学校周辺で白色舗装を施した市道の道路事業は、父兄の方から、子供の安全の確保が図られたとの声が多く寄せられている。												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築		○サウザンロード相模台地区まちづくり委員会 ○アクト南口一番街地区まちづくり委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 自主的なまちづくりを行うため持続的な取組ができるよう各委員会を支援する					

様式2-2 地区の概要

相模台周辺地区(神奈川県相模原市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】 コミュニティの活気があふれる地区中心市街地として相応しい魅力の創造と住環境の整備を促進する。 目標1 地区中心市街地として相応しい賑わいのあるまちづくり 目標2 安全・安心で快適な住環境の整備 目標3 地域の一体感の創出とコミュニティ活動の醸成	小田急相模原駅の利用者数	単位:人/日	54,477	H17	55,100	H23	55,163	H23
	地区内定住人口	単位:人/日	56,270	H18	58,000	H23	56,360	H23
	市民活動団体の活動回数	単位:回/年	4,187	H17	6,600	H23	7,641	H23
	地区人口の社会増減	単位:人/年	-190	H18	-	-	167	H23
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・小田急相模原駅周辺の交通渋滞を軽減でき、安全で便利な歩行空間を創出できた。 ・米軍施設迂回による交通渋滞を軽減できた。 ・小田急相模原駅周辺の放置自転車問題を解決できた。 ・小田急相模原駅A地区再開発ビルの竣工により、オープン商業集積や来訪者の回遊性創出が進んだ。 ・狭隘道路の道路拡幅による渋滞の解消や防災機能の強化、カラー舗装による通学路の安全が確保された。また、市街化調整区域生活排水対策により公衆衛生を向上させ、全体として生活環境を向上した。 ・おださがプラザ多目的会議室の開設により地区住民コミュニケーションが活性化できた 							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・整備した道路、歩行者施設等における交通安全に努める。 ・放置自転車の撤去やルール啓蒙に努める。 ・商業集積や来訪者のさらなる回遊性創出のため、小田急相模原駅B地区再開発事業の平成25年9月の竣工を目指し、支援を継続する。 ・整備した生活道路、下水道施設や雨水排水施設の維持管理を図る。また、地域町会等の協力を得て防災訓練等の強化を図る。 ・多目的会議室等のコミュニティ施設のPRを継続する。 ・自動車駐車場の不足解消のため、小田急相模原駅北口B地区再開発ビル(平成25年9月竣工)に自動車駐車場を確保する予定である。 							